
君の香りがした

五十嵐 ライカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の香りがした

【Nコード】

N0054V

【作者名】

五十嵐 ライカ

【あらすじ】

忘れられない。君のことを

(前書き)

思いつき

最近、君とは会えていないね。

専門学校に進学した君は、もう卒業して、夢だったペットのトリマーとして働いている。

そして僕は…大学3年生。

理学療法士を目指して、未だに勉強を続けている。

大学に行きながら、バイトもしているし…なかなか君と会う時間が作れなくてごめんね。

それでも、僕は…君を愛しているから。

君は今、どうしている？

僕のこと、少しは想ってくれているかな？

桜の花が咲き乱れ、そして若葉が色づく、新緑の季節が来た。

僕にとって大事な季節。

君と初めて出逢い、僕らが恋人として始まった、思い出の季節。

そして、君の誕生日でもある。

どうしても、君の誕生日は祝いたくて、バイトの休みを取って、君にメールをした。

君は、忙しそうだったけど、嬉しそうな声で会う約束してくれた。君への誕生日プレゼントは、大好物のキャンディと、大好きな本を買った。

会う日までが待ち遠しくて…長い毎日が続いた。

そして…約束の日を迎えた。

待ち合わせは、昔から変わらない、時計塔の下。
僕はいつも通り、時間より早く着く。

そして、君はいつも通り…少し遅くに到着する。
相変わらずの寝坊癖。

それすらも愛おしいと思うのは、それくらい君に惚れているから。

いつものように、近くの公園に向かって歩き出す。

君の足取りに合わせて、少しゆっくりと歩く。

君は楽しそうに、色んな話をしてくれる。

ああ、幸せな時間だな、って思うんだ。

そして、公園に着くと、君へのプレゼントを渡す。

君の嬉しそうな笑顔を見れば、言葉なんていらない。

くしゃくしゃと髪をなで、君を抱き寄せる。

嬉しそうに体を寄せる君を見て、心から幸せを感じる。

君を強く抱きしめる。

君の存在を感じた。

落ち着く香りが、鼻をかすめる。

君の香りがした。

（それはひどく優しく、落ち着く香り）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0054v/>

君の香りがした

2011年10月9日12時02分発行